

入選

地球は丸い

静岡県 西益津小学校 四年

宇田川 晟南

ぼくが、3年生のときの事です。下校とちゅうにどこからか、ビニールぶくろが飛んできました。ぼくは、そのビニールぶくろを拾い、周りを見わたしました。近くに、手に荷物をたくさん持ったおばあさんが、こまった様子で他のビニールぶくろを集めていました。

「大丈夫ですか？」

ぼくは、心配になり、おばあさんに声をかけました。どうやら荷物と、大きな花束を入れるために出したビニールぶくろが、風でまっけてしまったようです。

「家まで運びましょうか。」

ぼくは、おばあさんの荷物を持って、家までついて行きました。おばあさんは、

「今、あげられる物が何も無いのよ、ごめんね。本当にありがとう。」と言いました。

ぼくは、それから、お母さんに帰りがおそいとおこられないか、ドキドキしながら走って家まで帰りました。おそくなったわけを、お母さんに話すと、

「すごいじゃん。おばあさんによろこんで、良かったね。」

と、笑顔で言ってくれて、ぼくは、少しホッとしました。

次の日、学校で先生にそのことを話すと、先生はおどろいた顔で、

「すごいじゃん。」と言ってくれました。

そして休み時間に、校長室に呼ばれました。ぼくは、おこられるのかなと思いながら校長室に向かいました。すると、

「とても素晴らしいことをしましたね。」と、昨日のことをほめてもらいました。ぼくは、まさか校長先生にほめてもらえるとは思いませんでした。そしてなんと、全校日よりまでのせてもらったのです。

初めは、そこまでしなくてもいいのにと、はずかしい気持ちになったけれど、友達や、友達のお母さんに、「すごくカッコイイ」とか、「なかなかできることじゃないよ」とか、たくさん声をかけてもらって、ぼくはだんだん自分のしたことが正しかったんだ、と思えるようになりました。

そしてぼくは、思い出しました。

「地球は丸いから、自分のしたことは、良いことも悪いことも、必ずいつかめぐって返ってくるよ。それが明日かもしれないし、10年後かもしれないよ。」と、いつもお母さんが言っていることを。

本当に、その通りだと思いました。いつか、こっそりアイスを食べたとき、すぐにバレて1週間アイス禁止になったこともありました。あのとき、おばあさんは、「あげられる物は何もないの。」と言ったけれど、ぼくは、みんなからのたくさんのうれしい言葉と、自信をもらうことができました。

ぼくには、プロ野球選手になるという夢があります。これからもまわりの人や、社会のために、自分にできることをたくさんして、将来たくさんの人におうえんしてもらえる選手になります。